

## 平成27年度全国保健師長会北海道ブロック研修報告

北海道ブロックの研修会は、昨年度に引き続き保健師リーダーとしてのあり方や、地域に責任を持った保健活動に取り組むために、どのような体制や人材の育成が必要となるのかなど、具体的な取り組みについて報告や意見交換を行うことにより理解を深め、各々の保健活動に活かす機会とすることを目的に開催しました。

【日 時】平成27年9月12日（土）

【会 場】WEST19（札幌市保健所）

【参加数】76名

### ～プログラム～

■全国保健師長会あいさつ並びに活動指針に関する説明  
全国保健師長会副会長 青柳 玲子 様

■報 告

「ソーシャルキャピタルの醸成にかかる保健師の能力形成に関する研究」報告  
報告者 全国保健師長会常任理事 岡島 さおり 様

■講 演

「公衆衛生看護学実習と人材育成について」

～新カリキュラムの教育課程となり初めての实習を終えて考える～

講師 札幌市立大学看護学部地域看護学准教授 清水光子 様

■実践報告

① 札幌市における「地域保健活動推進事業」の3年間の取組と成果について

報告者 札幌市保健所健康企画課地域保健担当係長 石川珠美 様

② 地区担当制の導入の実際～室蘭保健所の取組から～

報告者 北海道室蘭保健所(胆振総合振興局保健環境部保健行政室)

健康推進課健康支援係長兼主査(健康危機管理) 明瀬雅子 様

■グループワーク

「地域における保健師の保健活動について」(平成25年4月)を理解し、保健師活動を支える体制や人材育成のあり方について考える機会とする。

札幌市立大学 清水准教授から「公衆衛生看護学実習と人材育成について」という演題で、新カリキュラムの教育課程となり初めての実習を終えて考えるという内容でご講演をいただきました。

ミニマムリクワイアメンツを基準とした実習の構成や、事前の学内での準備、実施施設との打ち合わせなどについて詳しくご報告いただきました。保健師コース選択の学生のため実習への動機づけは特に問題なかったことや実習を終えたまとめのプレゼン、記録から保健師の実践を一定程度継続できる力が身についたと評価しているということでした。

また、実習施設からも、実習指導が保健師人材育成の参考になったという感想があったということです。

将来保健師として働く学生の実習は、現場と大学の協働作業であり、現場との協力体制が重要であるという認識を深めたという報告でした。



[清水准教授の講演の様子]

実践報告では、北海道室蘭保健所の地区担当制導入や札幌市の地域保健活動推進事業の報告があり、各自治体の活動指針の策定や地域保健活動の充実等について考える機会となりました。

グループワークは活発な意見交換が行われ、自分たちの活動は自分たちで創り、伝えていくことが重要である。保健活動のあり方は画一的でなく、地域の実情に応じて多様であるが、地域に責任を持つことが重要であり、そのための体制について検討していく必要がある。この検討が着実に進んでいることが分かった。保健事業を展開するためには、組織にコンセンサスを得て組織として決定することや組織横断的連携が不可欠であること、保健活動の見える化のためには地区診断が重要であることを再認識した。等の意見がありました。

アンケート結果では、ほとんどの参加者から参考になったという回答をいただきました。自由記載では、自分の町に責任をもてるよう、体制の見直しを優先的にやっていきたい。いろいろな職場で働く保健師が、同じテーマで学び、語りあえる研修はとても有意義で、明日からの仕事の活力となった。などのご意見をいただきました。



[グループワークの様子]

(記：北海道ブロック理事 澤田さとみ)